

## ★ 麦類 赤かび病 情報

麦類の赤かび病菌は人畜に嘔吐、腹痛、下痢等の中毒症状を起こすカビ毒(デオキシニバレノール、ニバレノール)を産生するため、麦類の出荷に際して、赤かび病被害粒混入に対する出荷基準が厳しくなっています。被害粒が0.05%(10,000粒に5粒)以上混入すると、その麦は販売することができません。

4月に入りますと、六条大麦(京都府奨励品種:「ミノリムギ」)を皮切りに、二条大麦(同種:「アサカゴールド」)、小麦(同種:「農林61号」、「ニシノカオリ」)と出穂が始まります(表1)。下記の防除適期を参考に予防防除に努めましょう。



写真1 赤かび病(小麦)  
(あいち病害虫情報HPより引用)

### 1 赤かび病の防除適期

麦類の赤かび病(写真1)は、イネ科植物の残渣等に形成された子のう殻から春に空気中へ飛散した子のう胞子が花器感染して発病します。従って、防除適期(1回目)は、小麦、六条大麦では、開花始めから開花期(出穂7~10日後)とされています(表2)。一方、二条大麦は閉花性で赤かび病菌の主な感染部位である葯が抽出しないため、防除適期(1回目)は開花期ではなく、葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期(穂揃い期の10日後頃)とされています(表2)。

次に、各麦類とも、1回目の防除の7~10日後が、2回目の防除適期とされています。

さらに収穫期までに降雨が続き、赤かび病発生の兆候が見られる場合は、直ちに追加防除を実施します。

### 2 麦類の生育予測

向こう1か月の気象予報では、気温は低い、降水量は平年並と予想されています(大阪管区気象台、3月30日発表)。

現在、試験運用中の農林水産省の麦類の発育予測システムでは、3月31日現在、11月11日は種の「農林61号」、「ニシノカオリ」の出穂期、開花期は、いずれも遅れる見込みと予測されています(表3)。

### 3 防除上の注意事項

- (1) 出穂期、開花期は品種、は種時期、ほ場の場所、栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断して下さい。
- (2) 六条大麦は赤かび病に対する抵抗性が弱いので特に注意が必要です。
- (3) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。

表1 京都府麦類奨励品種特性表(一部抜粋)

種類別	品 種 名 (採用年次・播種年)	適応地域 (普及地域)	は種期	出穂期	成熟期
			月日	月日	月日
小麦	農 林 61 号 (S55)	府内全域	11.11	4.23	6.7
	ニシノカオリ (H15)	南丹、山城地域の平垣部	11.11	4.18	6.5
二条大麦 六条大麦	アサカゴールド (H8)	南丹地域	11.2	4.15	6.1
	ミノリムギ (H1)	丹波、丹後地域の中山間地(積雪地帯も可能)	11.16	4.2	5.28

表2 麦類赤かび病の防除適期(1回目)

最初の防除を行う生育時期	
小麦	開花を始めた時期から開花期(1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40~50%に達した日)までの間
二条大麦	穂揃い期(全茎の80~90%が出穂した日)の10日後頃
六条大麦	開花を始めた時期から開花期までの間

「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル(H20)」より引用

表3 麦類の発育予測システムによる小麦の出穂期、開花期の予測(3月31日現在)

品種	場所	は種日	出穂期	開花期
農林61号	福知山	11月11日	4月28日	5月9日
ニシノカオリ	園部	11月11日	4月28日	5月8日

・発育予測システムは現在、試験運用中(参考データ)、小麦のみ予測  
[http://pc78.cgk.affrc.go.jp/wheat/index\\_mugi.html](http://pc78.cgk.affrc.go.jp/wheat/index_mugi.html)